

体験型海外教育実地研究 第4学年 異文化理解

「Let's hold “Yuru-chara” contest in Greenville!」

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 天野 航平

1 はじめに

今日、教育の現場においても様々な形で国際交流が取り入れられている。今後ますますグローバル化が進んでいく社会の中で、主体的に生きていく為の力を子どもたちに身につけさせていくことは、これからの学校教育に求められる大きな役割の一つであると考えます。グローバルマインドを持った教師になることは、これからの教育現場に携わっていく私にとって、避けて通ることはできない課題である。

私はこれまで、海外旅行に行ったり、留学生と関わったりした経験はあるものの、海外の文化や生活、ましてや教育という視点から本格的に関わるという経験はしたことがなかった。実際にアメリカの学校現場に赴き、子どもや教師と関わり、自分も授業者という形で参加するということは、自らの文化や教育に対する視野を広げ、教師としての資質を高めることに繋がるのではないかと考えた。また、言語や習慣、文化の異なる子ども達相手に授業をするというのは日本ではまずできることではなく、今後の教師人生における大きな自信につながると考えた。

これらのことが、私が体験型海外教育実地研究への参加を決意した理由である。

2 実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程, パスポート, ESTA, 授業研究テーマ事例,		部屋割り
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/6	土	第9回学校間交流国際フォーラム		
7/7	日	ワークショップ: 学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明(学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
7/23	火	保険説明(学習指導案の検討, 指導案の提出について)		
8/26	月	準備状況確認, 報告書・教材集・発表会について, 渡航準備・関係書類提出		
9/9	月	最終事前打ち合わせ(準備状況, 準備物・集合時刻等の確認)		
9/14	土	広島-成田 0755-0935 (NH-3236) 成田-ワシントン ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン ダラス-ローリー 1220-1329 (UA-4880) 空港 - (ウォーレン先生・ECU バス) →City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville

9/15	日	(ウォーレン先生・バス)	ミーティング, ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville 同上
9/16	月	City Hotel →エルムハースト小学校 (ウォーレン先生・バス) ECU 大学 (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (エルムハースト小学校) 校内見学 授業見学 クラス担任と授業についての打ち合わせ、確認 大学訪問 大学図書館見学 リソースセンター見学	Greenville 同上
9/17	火	City Hotel →エルムハースト小学校 (ウォーレン先生・バス)	学校訪問 (エルムハースト小学校) 授業実践 校内見学 授業見学	Greenville 同上
9/18	水	City Hotel → ECU (ウォーレン先生・ECUバス) ECU → ローリー (ECUバス)	午前 ECU の講義に参加 午後 ローリーへ移動 自然史博物館を見学する。	ノースカロライナ州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh, NC 27603 TEL(919)8320501 Raleigh
9/19	木	徒歩で, Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後 ローリー市内見学 歴史博物館, キッズミュージアムを見学する。	Raleigh (同上)
9/20	金	ローリー—ワシントン ダラス 1021-1134 (UA-4887) (空港—ホテル間はタクシー)	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験・Book Fair スミソニアン宇宙航空博物館, 自然史博物館を見学する。	Washington DC(同上)
9/22	日	ワシントンダラス—成田 1220-1525 (NH-1)		
9/23	月	成田—広島 1740-1915 (NH-3237)		

3 実地研究授業

3.1 単元名 第4学年 異文化理解 「Let's hold "Yuru-chara" contest in Greenville!」

3.2 事前準備

- ① 単元設定の理由

日本では今日、「ゆるキャラ」ブームが起こっており、全国各地でご当地ゆるキャラが生み出され、沢山の人に愛されている。「ゆるキャラ三箇条」によれば、ゆるキャラの条件は、「①郷土愛に満ち溢れた強いメッセージ性があること ②立ち居振る舞いが不安定かつユニークであること ③愛すべき、ゆるさ、を持ち合わせていること」であるとされている。今回は、この中でも特に「郷土愛」に着目した。郷土を愛する気持ちや地域振興への想いを、ゆるキャラという形で表現するのは日本独特の文化であるが、「郷土愛」自体は日本に限らず、世界中の人々に共通するものであると考える。

そこで、今回の実地研究では日本の「ゆるキャラ」という文化、またその背景にある人々の想いについて伝えるとともに、グリーンビルのゆるキャラを考えることで自分達の故郷について見つめ直し、故郷を愛する心情を深めてもらいたいと考え、この教材を設定とした。

② 準備したこと

授業準備にあたっては、ゆるキャラの定義、種類、特徴、活動、成り立ちなどを、より具体的に説明することができるように、スライドショーを作成した。また、興味を持ってもらえるように、ゆるキャラのぬいぐるみやキーホルダーを幾つか用意した。

授業の中で主に扱っていく具体例として、愛媛県今治市のゆるキャラである「バリィさん」を扱うこととした。日本での人気が高く、地元のPRに成功した代表的な例であること、また、今治市の良い所を組み合わせていることが造形から分かり易く、子ども達が自分たちの町の良い所を出し合う、という授業のねらいにつながりやすいと考えたことが挙げられる。

3.3 学習指導案

Lesson Title: Let's hold the "Yuru-chara" contest in North Carolina!

Lesson Author: Kohei Amano

Date: September 17th, 2013

Grade I would like to teach : 4th or 5th grade

Subject: Culture

Description: In this class, students will learn about Japanese "Yuru-chara" and their characteristics and activities."Yuru-chara" are the characters which are made mainly to advertise prefectures, cities, or towns. And children will know Japanese people put love for their hometown into "Yuru-chara". Then, they will discuss the good points or favorite points of their hometown. And they will create their own "Yuru-chara" with their love for their hometown. In the end, they will share their ideas each other.

Objectives: As the result of the activity, students will be able to

1. Know about Japanese culture and notice that Japanese people put love for their hometown into Yuru-chara.
2. Recognize the good point of hometown and strengthen love for their hometown.

Materials, Resources and technology:

pictures, movies, goods of "Yuru-chara", worksheets

Procedure:

Activity	Instruction of teacher	Materials
<p>1 Meet Japanese “Yuru-chara”.</p> <p>2 Learn about what is the “Yuru-chara”</p>	<p>1 Show various pictures of “Yuru-chara”, and ask children about their impressions or surmise the reason why they are made.</p> <p>2 Explain the source of their names or figures, and they includes factors related to each region.</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Pictures , goods of “Yuru-chara” • Japanese map,
<p>3 Think about a wish of people in ”Yuru-chara”.</p> <p>4 Understand today’s activity that is creating their original ”Yuru-chara”.</p> <p>5 Share the good points or favorite points of their hometown.</p> <p>6 Create original “Yuru-chara” and draw it on the paper.</p>	<p>3 Introduce activity of “Yuru-chara”. (EX. Kumamon and Bunkakki are doing fighting sumo . Hoyaboya encourage the disaster-stricken area.)And ask children about what they learned about ”Yuru-chara” .</p> <p>4 Tell children that they will create their original “Yuru-chara” by following Japanese one.</p> <p>5 Make children write about the good points or favorite points of their hometown. (for example , foods , industries, sightseeing, traditional , culture, creatures ,natures...) and put them up on a whiteboard .</p> <p>6 Tell children to chose ideas (as many as they like) and draw their original “Yuru-chara” on worksheet .</p>	<ul style="list-style-type: none"> • pictures, Moovies • cards to write what children thought • worksheets
<p>7 Share the “Yuru-chara” which everyone created.</p> <p>8 Strengthen love for their hometown.</p>	<p>7 Put up their ”Yuru-chara” on whiteboard and introduce some of them.</p> <p>8 Praise that their hometown has many good points , and children found them a lot.</p>	

3.4 授業の実際

(1) 導入においてはまず自己紹介を行った後、スライドショーによって人気キャラクターの画像を見せながら、漫画、企業、TV 番組など、キャラクターには様々な種類があることを示した。

その上で、「ゆるキャラ」と呼ばれるキャラクターが現在日本で人気だということを紹介した。

(2) ゆるキャラを10種類ほど紹介し、子ども達に気に入ったのキャラクターを答えてもらった。その後、ゆるキャラ達の持つ共通点について予想して答えてもらった。「アニメのキャラクターだ」「みんな勇気がある」等の意見が出た。ヒントとして日本地図上にゆるキャラを配置して見せ、日本の様々な町のキャラクターであることに気付けるようにした。

(3) 「バリィさん」を提示し、特徴についての気付きを尋ねた。「冠をかぶっていて王様みたいだ」「船の様なものを持っている」等の気付きが出された。その後スライドショーを用いて、バリィさんの名前やデザインは今治市の様々な要素が由来となっており、今治の良い所がたくさん詰まったキャラクターであることを説明した。子どもたちは、バリィさんの画像と今治市の名物の写真を見比べながら、感心した様子で聞いていた。

(4) ゆるキャラの様々な活動の写真を示し、ゆるキャラが地域振興や地域間交流、復興の中心となっている様子を紹介した。これにより、ゆるキャラブームの根底には人々の郷土への想いがあることに気付けるようにした。

(5) 観光、自然、食べ物など、例を示しながら、「自分の町の良い所、好きな所は何か」という発問を行った。ワークシートを配布し、自分の思うグリーンビルの良い所と、それを組み合わせたゆるキャラをデザインしてもらった。多くの子どもが、自分なりにグリーンビルの良い所について考え、積極的に活動に取り組んでおり、ECU パイレーツ、綿や食べ物、シカやリスなどの動物を挙げ、それを基に多様なキャラクターを自由に考えている様子が見られた。最後にそれぞれがグリーンビルについて考え、沢山の良い所を出せたことを評価し、まとめとした。



3.5 考察

今回、パワーポイントを主に使用しながら授業を行った。これにより、画像、写真、図、文字、アニメーションなどでより体的に説明することができ、ゆるキャラという日本文化について理解してもらうことができたと思う。その反面、特に授業の前半は提示や説明がメインとなってしまい、子どもが考えたり活動したりという時間が少なかった。また、英語力の不足から子どもから出た質問や、発問に対する発言があまり聞き取れず、十分にコミュニケーションをとることができなかった。その結果、一方通行型の授業になってしまったように思う。

ゆるキャラを作成する活動においては、それぞれが自分なりにグリーンビルの良い所について考えることができていた。動物や地元のスポーツチームなどを書いている子どもが多く、「一般的に言われる」良い所だけではなく、「自分の思う」良い所を沢山あげることができていた。その点で、ゆるキャラをつくる活動を通して、本実践のキーであった「自分の郷土に対する想い」に迫ることができたのではないかと考える。それを基に発表や交流を行い、子どもたち同士で想いを共有していくことができれば、更に深めることができたのではないと思う。説明によってゆるキャラを理解してもらう場面も重要ではあったのだが、子ども自身が考え、意見交流していく場面にもっと重点を置いて授業構成していく必要があったと考える。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

アメリカの学校教育に実際に触れて感じたのは、個に応じた指導の充実である。一つの教室を幾つかに分けて別々の学習をしていたり、一斉授業の最中に教師や子供が教室を行き来したり、という様子が衝撃的であった。ICT 教材や教室の設備も非常に充実しており、多様なアプローチができる環境になっていた。また、一口にアメリカの学校と言っても、学校によって、学年によって、クラスによって、全く様子が異なっているという印象も受けた。様々な個性を持つ子供たちに対し、そのニーズに応じ、学校設備や地域の環境を最大限活用しながら適切な教育活動を柔軟に展開していく、というのがアメリカの学校教育の大きな特徴であると考えられる。

勿論、日本の学校現場でそのまま適用できるわけではないが、今まで「当たり前」だと思っていた日本の学校教育のすがたに捉われず、新しいスタイルを積極的に取り入れながら柔軟な教育活動を行っていくという姿勢を常にもっておきたい。

4.2 自分自身についての変容

私は初対面の人と関わるのは元々あまり得意ではない。言葉の通じない相手とあれば尚更である。しかし今回、様々な場面で英語のみでコミュニケーションをとらなければならない状況に直面した。英語力の未熟さもあり、決してスムーズな会話ができただけではないが、自分と相手がお互い一生懸命に話して、通じ合うことができた時の喜びは忘れられない。このことは外国人相手に限らず、他者と積極的にコミュニケーションをとっていく為の自信になった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

私はこれまで、言葉は通じなくともコミュニケーションは何とでもなる、と考えていた。実際に日本で外国人と関わる際、身振りや筆談を交えてやり取りできる場面は少なくない。しかし、今回自分がビジターの立場になり、相手と深く関わろうと試みると、英語が聞き取れない、上手く伝えられない等、歯がゆい思いをする場面が沢山あった。また、授業の中で、日本の子どもなら何となく理解してくれること、当たり前になってくれることが、アメリカの子ども相手には通じない場面もあった。これまで如何に自分が日本の社会にいることに甘えていたかに気付くことができた。コミュニケーションの前提として、相手の立場に立つこと、言語や文化、考え方について理解しようと努めることの重要性を、身をもって知ることができた。

5 おわりに

今回の実地研究での体験は、私の人生にとって大切な財産に、そして大学時代の大切な思い出になりました。事前の指導から現地での研修の隅々に至るまで気を配り、ご指導下さった諸先生方、沢山の素晴らしい時間を作ってくれた仲間達、大変温かく楽しいおもてなしをして下さったウォーレン先生をはじめとするアメリカの先生方、私の拙い授業を一生懸命受け止めてくれた子ども達、GPSC を通じて出会った全ての方々に心から感謝いたします。

この体験をただの体験で終わらせないよう、これからの自分の人生に存分に活かしていきたいと思っております。本当に、ありがとうございました。